

P(計画)

D(実施)

C(評価)

A(改善)

学校教育目標

意欲をもって挑戦し、自己表現できる生徒

【校内研修の取組み】 研修主題 「分かる・共に深める授業づくり」
～目標と指導と評価の一体化を意識した授業実践～

湖東中授業の3本柱 **魅力的な学習課題** **個に応じた支援** **言語活動の充実**

1 研修内容

- 単元を通して、生徒が「何を学ぶのか・できるようになるのか」を教師が理解し、計画的に「見通す」「振り返る」場面を設定することで、生徒が「何を学んだのか・できるようになったのか」を実感できるようにする【授業研究の実施】
- 社会とのつながりを意識させ、価値づける授業と外部人材の活用【日常の授業実践】
- ICTを効果的に利用した授業実践【日常の授業実践】

2 研修方法

- 単元全体における「見通す」「振り返る」を明確に位置づけた単元計画を作成する。
- メンターチーム研修の実施(授業研究・ICT研修等)
- タブレットPC(クラスルーム・ムーブノート・オクリンク等)の有効かつ積極的な活用をする。
- 単元の中で外部人材を活用した授業を実践する。
- 学習支援アプリや学習相談等、基礎学力定着のための取り組みをする。
- オンライン授業やリモート集会を行い、よりよい活用方法について研修をする。

【生徒の実態】

項目	優れている点	伸ばしたい点
学習意欲	・落ち着いた態度で授業に臨む姿勢 ・指示されたことを確実に行う	・自ら求めより高次の学習に挑戦する意欲 ・課題を自己決定し、取り組む意欲
表現力	・資料を用いて、丁寧に伝える ・PCを使い、プレゼンソフトでまとめる	・他者に伝えるために、簡潔に表現する ・思考の流れを筋道を立てて説明する
家庭学習	・宿題等決められた課題を行う	・見通しを持ち予習・復習を行う ・知識・技能の定着のため自主的に進める
言語活動	・文字言語で表現する ・相手の意見を肯定的に捉える	・対面で音声言語を用いて表現する ・自分の意見を根拠を持って示す。
生活	・自分たちで決めたルールやマナー、約束、時間等を守ろうとする。 ・与えられたり指示されたりしたことを行う。 ・行事活動に協力して取り組む。 ・友人関係に満足している生徒が多い ・夢や目標をもっている生徒が多い	・困難な課題にも失敗を恐れず挑戦する ・簡単にあきらめたり逃げ出したりせず、粘り強く取り組む態度 ・自分にはいいところや可能性があるという自己肯定感を高めたい ・社会や地域をよくするために何をすべきか考え実践する。

○：成果 ●：課題 %は良好とした回答

【学校評価(学習)】当てはまると回答した割合

- 「生徒」
○私はしっかり学習に取り組んでいる。(R4:81.6%⇒R5:84.4%)
「保護者」
○基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業を行っている。(R4:77%⇒R5:77.5%)
○子どもは自主的に家庭学習に取り組んでいる。(R4:57%⇒R5:79.3%)
「教員」
△主体的・対話的で深い学びができたか。(R4:78%⇒R5:78%)
●キャリア教育を意識して教育活動を行ったか。(R4:77%⇒R5:73%)

【学校評価(生活)】当てはまると回答した割合

- 「生徒」
○学校生活に満足している。(R4:89.5%⇒R5:91.2%)
○私は友人関係には満足している。(R4:91.1%⇒R5:92.4%)
○私はいじめを防止するために、意識して生活ができている。(R4:91%⇒R5:92.4%)
「保護者」
●先生は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。(R4:85.1%⇒R5:82.2%)
●困ったことがあると、先生方に気軽に声を掛けられることができる。(R4:86.2%⇒R5:82.2%)
「教員」
○教育目標「意欲をもって挑戦し自己表現できる生徒の育成」を意識しているか。(R4:93%⇒R5:96%)

【地域との関わり】

- 「生徒」
○私は湖東中自慢のあいさつがしっかりできている。(R4:84.2%⇒R5:88.6%)
「保護者」
●学校は、家庭・地域と連携・協力して活動を行っている。(R4:87.4%⇒R5:85%)
●学校は、便りやホームページ等で情報を良く発信している。(R4:83.8%⇒R5:81%)
「教員」
●ホームページやたよりの情報発信、地域人材の活用等、地域に開かれた学校づくりの推進 (R4:68%⇒R5:68%)

学校関係者評価 *教育活動の参観などから

- 【学習】ICTの普及により授業がより興味深いものになっていくことの期待があるが、実際に文字を書くなどこれまで行われていたことも大切にしていきたい。
【生活】いじめについては、気持ちのすれ違いで傷ついてしまうこともある。教師や周囲の生徒同士で助け合う関係を作り、安心して悩みを話すことができる環境を作りたい。
【全般】アンケート結果の分析は、数値の変化だけをとらえるのではなく、時代の変化に伴う考え方も考慮して分析をしていくと今後学校に必要なことが見えてくる。

【結果・改善策】

- 学習目標や活動を明確化し、知識・技能を活用し、思考・判断・表現する機会を設定した単元計画を作成する。毎時の授業の振り返りを丁寧に行い、学びを調整するようにする。
- 生徒が成長を実感する機会を設定し、自信を身に付けさせるとともに、意欲的に挑戦しようとする態度を養う。
- 基礎学力の定着を図るために、継続的にタブレットPCやドリルを併用して、個別最適な学習を行う。
- 教科ガイダンスにおいて、家庭学習の仕方を助言する。また、計画を作成させる。補助教材の効果的な利用方法の指導をする。定期的に学習相談の時間を設ける。
- 教育活動にキャリア教育の視点を位置づけ職員で共有する。

【結果・改善策】

- 授業だけでなく、生活記録での日記や学級活動、学校行事等で振り返って書くことで自己表現する場を設ける。
- 自己理解や他者理解、人間関係づくりのトレーニングを行い、自己肯定感やコミュニケーション力を向上させる。
- 生活アンケート(いじめ調査を含む)を定期的に行い、早期発見、対応を行う。
- 生徒・保護者ともに丁寧な教育相談を積み重ねる。

【結果・改善策】

- 学年のたよりを、定期的に配布し、学年の様子を伝えた。
- 2年生では新聞社の読者発言欄に、学校活動の感想作文を投稿し、多くの生徒が掲載された。
- ふれあい講座(1年)、家庭科で地域の方に講師のお願いをした。その他の活動での活用を検討する。
- CSを本格的に実施し、より地域に開かれた学校を目指す取り組みを始めることができた。
- 公開授業や行事の参観者を増やし学校の様子を伝える。
- 各種たより、ホームページなどを活用し、保護者や地域に学校の様子を伝え、協力を得られるように努める。

- 「分かる・共に深める授業づくり」のために、①目標と活動の明確化 ②指導の充実③評価を生かすサイクルを行う。
- 「主体的な学び」①授業公開、②言語活動を取り入れた学びの場の設定をする。校内研修でOJTによる教師の資質向上に努める。
- 基礎学力の定着や学習意欲を高める学習機会の設定
→学習ソフトの利用や難問への挑戦、個に応じた学習相談
- タブレットPCを用いた効果的な授業研修、ICT活用指導力の向上
- 地域と連携・協働をし、社会とのつながりを意識させる。
外部人材の活用→ふれあい講座・職業体験・講話の実施
- 校内まなびの教室や取り出し授業を活用する。
- 情報マナー、防災学習、交通マナー講座を計画的に行う。
- CSを通して、地域と協力、協働し、より開かれた教育活動を行う。
- いじめ防止に向け、今後も生徒、教師、保護者、地域が協力する。